

午後Ⅱ試験

問 1

問 1 では、経費精算システムを題材に、クラウドサービスを利用したデータベースの設計及び実装について出題した。全体として、正答率は低かった。

設問 1 は、全体的に正答率は高かったが、(2)の索引の種類と構成列及び(3)の正答率は低かった。(2)の索引の種類と構成列では、外部キーを構成する列の組が NULL を除くと一意であることの理解を求めたが、これに該当しない解答が散見された。(3)では、申請種別の値の制約だけを解答しているものが散見された。

設問 2 は、g 及び i の正答率が低かった。データベーススペシャリストは、性能基礎数値に基づいた性能見積りを行うことを求められる。データベースの性能、キャパシティ管理への理解を深め、実務に生かせるようにしてほしい。

設問 3 では、クラウドサービスの選定・評価について出題した。(1)②では、データベースのロールフォワードによるリカバリを行う際の問題点について解答を求めたが、これに該当しないケースの解答が散見された。(3)では、バッチ PGM のジョブスケジュールに着目した誤った解答が多かった。クラウドサービスの構成、仕様、利用料金などの特徴を理解し、適切なサービスの選択、運用設計を行うよう心掛けてほしい。

問 2

問 2 では、製菓ラインメーカーの受注、製造指図、発注、入荷業務を題材に、決定表、サブタイプの整理、概念データモデル、関係スキーマについて出題した。全体として、正答率は高かった。

(1)は、正答率が高かった。出題対象の業務はやや複雑であったが、問題文をよく読んで、業務を整理できた受験者が多かった。

(2)は、正答率が低かった。表形式でサブタイプを整理することで、サブタイプ間の関係が明確になり、正確な概念データモデルを作成できるようになる。

(3)のエンティティタイプ名の穴埋めは、正答率が高かった。一方で、概念データモデルの作成については、特に得意先、品目、発注のサブタイプ部分の正答率が低かった。サブタイプ間の関係が排他であるのか、共存であるのかを意識することを心掛けてほしい。

(4)は、マスタ部分の関係スキーマは正答率が高かったが、トランザクション部分の正答率が低かった。

関係スキーマは正答できているが、該当する部分の概念データモデルが正答できていないという受験者が散見された。主キーと外部キーの関係を正確に理解できていないために、正しいリレーションシップを引けなかったものと思われる。外部キーがどの主キーを参照しているのかを意識する習慣をつけてほしい。